

韓国における大学生の日本語学習動機づけの検討

－日本語関連専攻者と非専攻者の比較－

金元正*

(e-mail : kim_wonjung@yahoo.co.jp)

<目次>

- | | |
|---------------|---------|
| 1. はじめに | 4. 調査結果 |
| 2. 先行研究及び研究課題 | 5. おわりに |
| 3. 調査の概要 | |

キーワード：日本語学習動機づけ (Motivation of learning Japanese)、日本語学習者 (Japanese learners)、日本語専攻者 (Japanese Majors)、日本語非専攻者 (Non-Japanese Majors)、韓国人大学生 (Korean University student)

1. はじめに

2011年3月11日の東日本大震災以降、日本に留学する韓国人や韓国における日本語学習者（以下、韓国人学習者）及び日本語関連専攻者（以下、専攻者）は急減している。日本の法務省によると、日本への韓国・朝鮮の留学生総数は2010年から2017年にかけて約4割減少している。また、国際交流基金の『海外の日本語

* 九州大学大学院地球社会統合科学府 博士後期課程 日本語教育

教育の現状 『日本語教育機関調査結果』によると、海外の韓国人日本語学習者数は1990年、1993年、1998年、2003年、2006年、2009年には世界第1位であったが、2012年から減少し始め、2015年にはその数が4割以上激減し第3位となっている。さらに、韓国の教育統計サービスによる韓国の大学の日本語・日本文学系専攻への志願者数は、2011年と比べると、2017年には、一般大学¹⁾、専門大学²⁾、大学院修士課程でそれぞれ約5割、博士課程では6割に激減している。

そして、2009年12月、韓国における教育部は「2009年改訂教育課程³⁾」を発表し、「中等教育課程の改定の第二外国語」は選択科目の一つに改定された。2007年改定の教育課程まででは中等教育課程の第二外国語が必修科目として決まっていたが、2009年改定の教育課程では、7つの外国語から成る第二外国語は「生活・教養」科目の中で選択されるものとなった。そのため、齊藤(2016)は、学習の負担が大きい第二外国語を選択する学習者が大きく減少することになり、高校における日本語学習者も大幅に減少したと述べている。

1) 韓国の一般大学とは、4年制の正規大学を指す。

2) 専門大学とは、中堅職業人を養成するために専門的な理論や技術を教授・研究する高等教育機関であり、1979年から初級大学・失業高等専門学校・専門学校を一元化したもので、修業年限は2~3年である。

3) 2009年12月23日、「2009年改訂教育課程」(教育科学技術部 告示 第2009-41号)が発表された。「中等教育課程の編制」では、「基礎」(国語、数学、英語)、「探求」(社会(歴史、道徳)、科学)、「体育・芸術」(体育、芸術(音楽、美術))、「生活・教養」(技術・家庭、第二外国語、漢文、教養)の4つの領域として編制され、各科目の基本単位数は5単位で、各科目別1単位の範囲内で増減運営が可能で、可能な限り1学期に履修することになった。総計116単位のうち「生活・教養」(必修履修16単位)の中で第二外国語としては、「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」、「中国語Ⅰ・Ⅱ」、「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「ロシア語Ⅰ・Ⅱ」、「アラビア語Ⅰ・Ⅱ」の中から選択履修する。

「ncic 国家教育課程情報センター」 <http://ncic.go.kr/mobile.dwn.ogf.inventoryList.do#> (検索日 2018.09.15)

このように、近年韓国人学習者や専攻者などが激減しているという観点から、本稿では、韓国の大学における日本語学習者を対象として、近年の日本語学習動機づけを検討し、さらに専攻者と非専攻者の比較を行う。

2. 先行研究及び研究課題

動機づけは、言語を学ぼうとする意欲のことであり、第二言語の学習が成功するか否かに影響を及ぼす個人差 (individual differences) の1つとなる。第二言語の動機研究は社会心理学的研究に端を発する。Gardner & Lambert (1972) は、第二言語の学習動機は外国や外国人に対する態度 (attitudes)、および学習課題に対する志向 (orientation) によって決まり、その志向には道具的

(instrumental) なものと統合的 (integrative) なものがあるとしている。道具的志向とは、言語学習の目標が実利的価値に結びついており、統合的志向は、目標言語集団の一員になりたいなどの社会文化的な理由に基づく。また、Gardner (1985) の社会教育モデルでは、(目標言語社会への) 統合性と学習環境への態度が動機に影響を与え、統合性、学習環境への態度、および動機の3要素で統合的動機が形成されるとしている。そして、教育心理学の立場からは、学習者はどのようにして動機づけられるかが議論されてきた。代表的な知見として、内発的 (intrinsic) 動機づけと外発的 (extrinsic) 動機づけがある

(Deci, 1975)。内発動機づけは、学習者の内面から出てくる動機によって学習が誘発される状態で、学習者は学習すること自体に満足する。外発的動機づけは、外からの刺激 (賞罰や報酬など) や、自分の価値観によって、学習が誘発される

(近藤・小森(編) (2012) 『研究社日本語教育事典』 pp. 89-90)。

動機づけに関する研究では、Gardner&Lambert (1959)、中川・神谷・李 (2006)、石塚 (2007)、田中 (2012)、斉藤 (2016) が挙げられる。まず、Gardner&Lambert (1959) では、「統合的志向」を持っている学習者が「道具的志向」を持っている学習者よりも言語習得するにあたってより成功的であることと、言語を学ぶ態度にも好意的であり言語習得のためにより強い動機づけを持っていると述べている。石塚 (2007) では、日本語学習開始時の動機では「自発的動機」が多く、学習経過において、報酬の獲得や就職という現実的な要素に変化する学生が多かった。斉藤 (2016) では、日本語学習者の日本語学習動機は「他の外国語より面白そうだ」が最も高く、続いて「日本・日本人・日本文化に興味」、「日本の漫画・アニメに興味」が高かった。また、田中(2012) では、日本人との「交流志向」が最も強く日本語学習を動機づけている。中川・神谷・李 (2006) では、日本語学習の目的について、専攻者と非専攻者の両群とも「日本研究や日本への関心」が最も高かった。

このように、先行研究では日本語学習について「統合的動機づけ」が高いという結果が多かったが、本稿では韓国人学習者の数が減少していることから、近年の韓国人学習者の日本語学習動機づけを検討していく。

以上のことを踏まえ、本稿の課題として以下の2点を設定する。

第一、近年、韓国の大学における日本語学習者は、日本語学習についてどのような動機づけを持っているのか。

第二、日本語学習動機づけと関連して、日本語学習者は日本語学習の開始・継続についてどのような理由を持ち、将来どのように活かしたいのか。

3. 調査の概要

調査は、2017年11月中旬～2018年3月下旬にかけて、韓国のソウル大学（ソウル市）、ソウル神学大学（富川市）、又松大学と忠南大学（大田市）、釜慶大学（釜山市）の5校において、日本語学習者361名を対象として質問紙調査⁴⁾を行った。その後、記入漏れ6名を除く355名の結果を基に分析を行った。内訳については、専攻別では専攻者176名、非専攻者179名であり、性別では男性162名、女性193名で、年齢は20代である。質問紙の質問項目は、田中（2012）、大江（2012）、纓坂・内藤・泉・奥山（2008）、郭・大北（2001）などから「統合的動機づけ」と「道具的動機づけ」に関する項目と金（2016）の対象者のインタビューで出現が多かったことを参考にして35項目を作成した。また、本調査に先立ち韓国の大学における日本語学習者50名を対象として行った予備調査での自由記述から得た内容も参考にした。「日本語学習開始の理由」、「日本語学習を継続している理由」、「日本語を学習して将来にどのように活かしたいか」については、自由記述（複数回答可）で回答を得た。

質問項目においては「1=全然そう思わない、2=そう思わない、3=どちらともいえない、4=そう思う、5=とてもそう思う」から回答を選んでもらい、そこから得たものについて因子分析⁵⁾（主因子法、プロマックス法）を行った。この際、因

- 4) 質問紙調査は、ソウル大学では、教師がまず授業で調査について説明し、回答はメールで回収した。その他の大学では、教師が授業時間に質問紙を配布し、その場で回収した。
- 5) 因子分析とは、複数の変数間の関係から変数の共通性や独立性を推定する統計手法であり、観測された複数のデータの背後に共通要因が潜在しているとするのである。プロマックス法とは、先にバリマックス回転を行ってある程度の単純構造を得た後で、因子負荷をべき乗するなどして単純構造をより強調した因子パターンを作ってターゲット行列（目標行列）に指定し、その目標に近づくよう斜交回転を行わせる手法であり、最近では多くの統計家が斜交回転を推奨している（石川・前田・山崎（編）（2010）『言語研究のための統計入門』p. 229）。

子負荷量⁶⁾が0.4以下の項目は除外することにした。その後、専攻者と非専攻者の比較のために、それぞれ因子別と項目別にt検定⁷⁾を行った。さらに、「日本語学習の開始・継続の理由、日本語を学習して将来どのように活かしたいか」については自由記述から得たそれぞれ内容をEXCELで整理しカテゴリー化して、専攻者と非専攻者の比較を行った。

4. 調査結果

4.1 日本語学習動機づけ

上述したt検定の結果を以下の表1、表2、表3に示す。

まず、表1に示しているように、日本語学習動機づけについて因子分析を行った結果、6因子が抽出された。

第1因子は「語学学習のためである」（因子負荷量：.941）、「日本語の実力向上が嬉しい」（.888）、「日本語の学習が楽しい」（.717）、「自分の視野を広げるために良い」（.717）などの項目から、語学学習に焦点を当てていることに注目し「語学学習志向」と命名した。第2因子は「日本の文学に興味がある」（.780）、「日本の新聞や雑誌を読みたい」（.657）、「日本の文化・歴史に興味がある」（.636）などの項目であり、日本の文学や文化に興味を持っていることがうかがわれるため、「日本文学・文化志向」、第3因子は「より良い職場に

6) 因子負荷量とは、共通因子が観測変数に与える影響の「重み」、すなわち「因子にかかる負荷の量」である（石川・前田・山崎（編）（2010）『言語研究のための統計入門』p.221）。

7) t検定とは、対象（サンプル）から得られた平均値をもう1つの対象の平均値と1対1で比較する方法である（米川・山崎（2010）『SPSS統計解析マニュアル』p.20）。

就職したい」 (.957)、「就職・昇進に有利だから学習したい」 (.858) などであり就職に焦点を当てていることで「就職志向」、第4因子は「専攻である」

(.880)、「卒業のための必修科目である」 (.705)、「大学に入学するため、必要であった」 (.681) などの項目なので日本語学習を内発的ではなく何か道具的に動機づけていることから「道具的志向」と命名した。第5因子は「日本に留学したい(短期・交換留学など)」 (.653)、「将来日本に住みたい(就職、日本人との結婚など)」 (.593) などの項目であるため日本に生活したいという「日本への憧れ」、第6因子は「放射能に関係なく、日本語学習が好き」 (.876)、「日韓関係に関係なく、日本語学習が好き」 (.753)、「地震に関係なく、日本語学習が好き」 (.521) という項目から自然災害や日韓関係にも関係なく日本語学習が好きということがうかがわれるため「日本語学習志向」と命名した。

〈表1〉 日本語学習動機づけの因子分析の結果

質問項目	1 因子	2 因子	3 因子	4 因子	5 因子	6 因子
	語学学習志向	日本文学・文化志向	就職志向	道具的志向	日本への憧れ	日本語学習志向
13. 語学学習のためである	.941	.044	.104	-.005	-.111	-.164
14. 日本語の実力向上が嬉しい	.888	-.034	.042	.005	.089	-.054
16. 日本語の学習が楽しい	.717	.058	-.027	.024	-.051	.126
11. 自分の視野を広げるために良い	.717	.136	.132	-.062	-.019	-.124
23. 日本人と交流をしたい(友達作りなど)	.641	-.095	-.136	.002	.252	.042
29. 日本に旅行したい	.635	-.104	-.065	-.188	.302	-.082
18. 日本語授業の時間が楽しい	.606	.067	-.061	.100	-.187	.203
24. 日本をより理解したい	.598	.119	-.097	-.009	.167	.047
15. 友達と日本語で話すのが楽しい	.581	.028	-.115	.107	.196	.076
12. 日本語が好きだから	.566	.029	-.027	-.038	.104	.178

17. 韓国語と似ているため、学習しやすい	.534	-.047	.176	-.010	-.203	-.064
28. 日本の食べ物が好き	.491	-.028	.024	-.066	.012	.032
19. 日本人先生との授業が楽しい	.458	-.029	-.048	.081	-.069	.186
32. 日本の文学に興味がある	.018	.780	-.083	-.056	.151	-.047
33. 日本の新聞や雑誌を読みたい	-.080	.657	.028	.010	.258	.047
31. 日本の文化・歴史に興味がある	.208	.636	-.069	.042	-.073	-.066
30. 韓国語と日本語の相違点を知りたい	.363	.497	.082	-.062	-.202	.014
8. より良い職場に就職したい	-.015	-.045	.957	-.075	.103	.016
7. 就職・昇進に有利だから学習したい	-.083	.050	.858	-.042	.001	.066
10. 試験でより良い点数をもらいたい	.463	-.157	.470	.134	.024	-.042
3. 専攻であるから	.051	-.055	-.159	.880	.116	-.094
6. 卒業のための必修科目である	.015	-.015	.112	.705	.000	-.073
4. 大学に入学するため、必要であった	-.152	.063	-.018	.681	-.108	.068
5. 資格習得のためである	.044	.044	.360	.402	.000	.009
34. 日本に留学したい（短期・交換留学など）	.216	.078	.005	-.006	.653	-.071
35. 将来日本に住みたい（就職、日本人との結婚など）	-.029	.093	.000	-.010	.593	.029
9. 日本語が使える職場で働きたい	-.063	.078	.309	.087	.581	.108
21. 放射能に関係なく、日本語学習が好き	.075	.018	.054	-.099	.040	.876
22. 韓日関係（政治・歴史など）に関係なく、日本語学習が好き	.096	-.010	.034	.005	-.009	.753
20. 地震に関係なく、日本語学習が好き	.489	-.047	-.040	.025	.016	.521
寄与率 ⁸⁾ (%)	34.38	10.03	3.90	3.23	2.59	2.26
累計寄与率 (%)	34.38	44.41	48.31	51.54	54.13	56.39

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

8) 寄与率とは、全測定変数の散らばりに関してそれぞれの因子が説明している量である（寺島・廣瀬(2015)『SPSSによるデータ分析』p.252）。

表2及び表3は、日本語学習動機づけについて専攻者と非専攻者を比較するためにt検定を行った結果である。因子別では第4因子の「道具的志向」(t=13.582, df=353, p<.001)と第5因子の「日本への憧れ」(t=3.737, df=353, p<.001)について、専攻者の方が非専攻者より有意差が非常に高かった。項目別の結果では特に「道具的志向」の中の項目である「専攻であるから」(t=20.924, df=353, p<.001)、「卒業のための必修科目である」(t=11.115, df=353, p<.001)、「大学に入学するため、必要であった」(t=7.138, df=328, p<.001)、「資格習得のためである」(t=3.738, df=350, p<.001)について、専攻者が非専攻者より有意差が非常に高かった。他に、「日本語の実力向上が嬉しい」(t=2.744, df=339, p<.01)、「友達と日本語で話すのが楽しい」(t=3.120, df=344, p<.01)、「日本の文化・歴史に興味がある」(t=2.700, df=343, p<.01)などについても専攻者が非専攻者より有意に高かった。

以上の結果から、専攻者の日本語学習に対する動機づけは、内発的である「統合的動機づけ」より、目的達成のための「道具的動機づけ」が高く、また非専攻者よりもその差が大きいことが明らかになった。

〈表2〉日本語学習動機づけの t 検定の結果 (因子別)

	専攻者 N=176		非専攻者 N=179		t 値
	M ⁹⁾	SD ¹⁰⁾	M	SD	
第4因子 道具的志向	13.17	3.730	7.97	3.487	13.582***
第5因子 日本への憧れ	4.05	.880	3.85	.890	3.737***

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

9) 「M」は「平均」を示す。

10) 「SD」は「標準偏差」を示す。

〈表3〉日本語学習動機づけの t 検定の結果 (項目別)

	専攻者 N=176		非専攻者 N=179		t 値
	M	SD	M	SD	
日本語の実力向上が嬉しい	4.40	.702	4.17	.871	2.744**
友達と日本語で話すのが楽しい	4.09	.958	3.74	1.137	3.120**
日本の文化・歴史に興味がある	3.78	.992	3.46	1.196	2.700**
日本の新聞や雑誌を読みたい	3.43	1.169	3.14	1.280	2.201*
試験でより良い点数をもらいたい	3.93	1.106	3.54	1.246	3.074**
専攻であるから	3.98	1.058	1.70	.994	20.924***
大学に入学するため、必要であった	2.50	1.251	1.65	.961	7.138***
資格習得のためである	3.15	1.310	2.60	1.459	3.738***
卒業のための必修科目である	3.55	1.347	2.02	1.243	11.115***
日本語が使える職場で働きたい	3.96	1.033	3.34	1.236	5.174***
日本に留学したい (短期・交換留学など)	4.20	.946	3.85	1.144	3.192**

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

4.2 日本語学習開始・継続の理由、将来どのように活かしたいか

韓国人学習者の日本語学習動機づけと関連して、「日本語学習開始の理由」、「日本語学習を継続している理由」、「日本語を学習して将来にどう活かしたいか」の3項目について専攻者と非学習者の比較を行った。回答は自由記述を得てカテゴリー化したため、両群のカテゴリー数や内容はそれぞれ異なっている。その結果を、図1、図2、図3それぞれの項目ごとに示す。

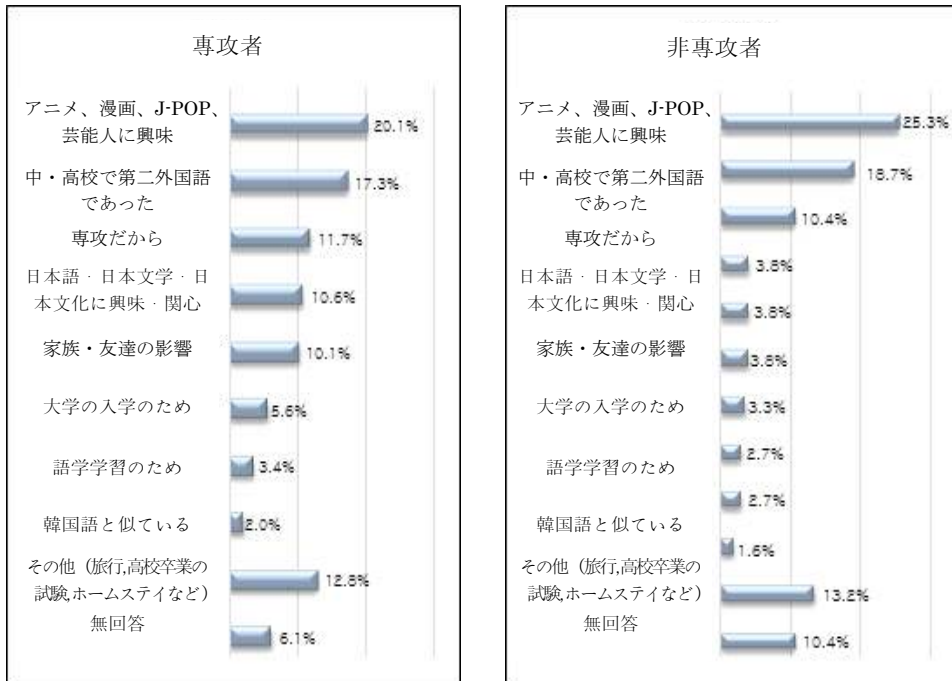


図1 日本語学習開始の理由

図1における「日本語学習開始の理由」について、専攻者の回答数（複数回答可）は計179、非専攻者は計182であった。両群とも最も多かったのは「アニメ、漫画、J-POP、芸能人に興味」であり、回答数はそれぞれ専攻者36答（20.1%）、非専攻者46答（25.3%）であった。次に、「中・高校で第二外国語であった」について専攻者は31答（17.3%）、非専攻者は34答（18.7%）であった。続いて、専攻者の場合は「専攻だから」（21答、11.7%）、「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」（19答、10.6%）、「家族・友達の影響」（18答、10.1%）、「大学の入学のため」（10答、5.6%）などであり、「その他」（23答、12.8%）では「旅行」「高校卒業の試験」「趣味」「先生の影響」「日本のメディアの影響」などがあつた。非専攻者の場合は「日本語・日本文学・日本文化に興味・関

心」(19答、10.4%)、「就職に有利」「単位習得(必修科目)」「親・友達の影響」がそれぞれ(7答、3.8%)、「英語が嫌いだから」(6答、3.3%)などであり、その他(24答、13.2%)では「資格習得」「日本料理を専攻したい」「好きなゲーム」「英語以外の他外国語が学びたかった」などがあつた。

以上の結果から、専攻者には内発的動機づけだけでなく、「専攻だから」、「大学の入学のため」という道具的動機づけが見られた。一方、非専攻者の場合は専攻者には見られなかつた「就職に有利」という動機づけが見られ、日本語学習の目的を最初から「就職」に焦点を当てているのが見られる。

図2は、現在「日本語学習を継続している理由」についての結果である。専攻者と非専攻者の回答数(複数回答可)はそれぞれ計188であり、両群の回答内容は異なつていた。まず、専攻者の場合は「専攻である」(61答、32.4%)、非専攻者は「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」(47答、25.0%)が最も高かつた。続いて、専攻者は「日本語学習が楽しい」(21答、11.2%)、「就職のため」(20答、10.6%)、「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」(14答、7.4%)、「語学学習」(9答、4.8%)などであり、その他(25答、13.3%)では「交換留学」「日本人との交流」「自己満足」「日本についてもっと知りたい」などがあつた。また、非専攻者の場合は「就職のため」(20答、10.6%)、「資格の習得」(15答、8.0%)、単位取得(13答、6.9%)、「日本語の実力向上」(10答、5.3%)、「日本旅行、趣味」(9答、4.8%)などであり、その他(18答、9.6%)では「試験のため」「卒業のため」「日本に住みたい」などがあつた。

以上の結果から、専攻者の場合には日本語学習開始の理由とは異なり、「専攻である」が最も多い理由となつた。また、開始の理由には見られなかつた「就職のため」、「進学・進路」の項目が見られた。非専攻者は学習開始の理由と同様

に、「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」という「統合的」動機づけが最も多く、「就職のため」、「資格の習得」、「単位習得」については、学習開始の理由より学習継続の理由となっていることが分かった。

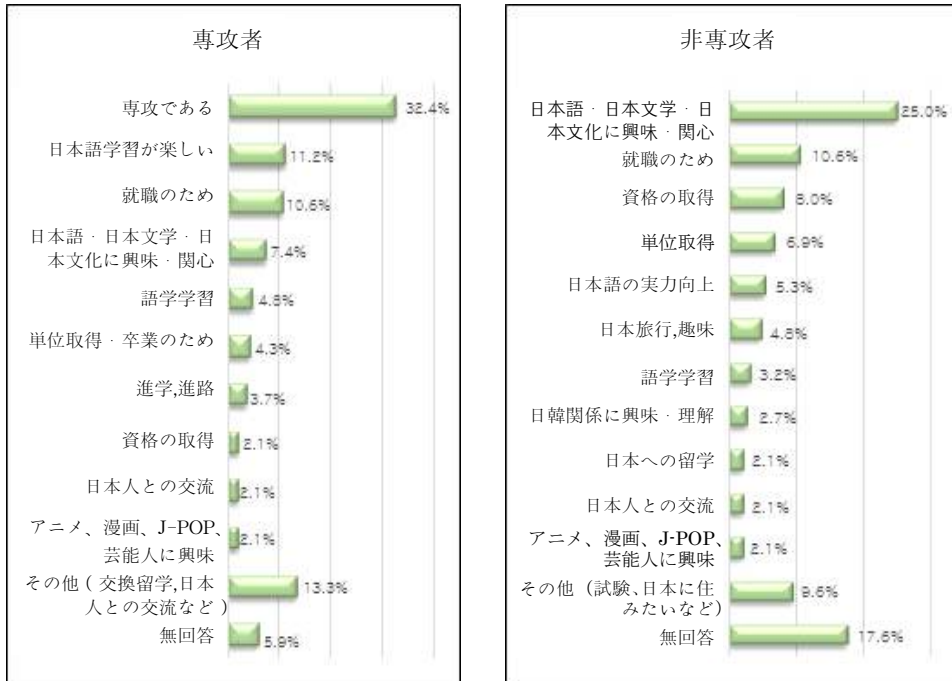


図2 日本語学習を継続している理由

次に、「日本語を学習して将来どのように活かしたいか」についての結果を図3に示す。

図3における「日本語を学習して将来にどう活かしたいか」について、専攻者の回答数（複数回答可）は計199、非専攻者の回答数は計205である。両群とも最も多かったのは「就職のため」であり、専攻者は119答（59.8%）、非専攻者は100答（48.8%）であった。続いて、専攻者は「進学（大学院など）」（15答、7.

5%)、「趣味(旅行、読書)」(13答、6.5%)、「日本人との交流」(12答、6.0%)などであり、その他(16答、8.0%)には「日韓関係の改善のため働きたい」「日韓関係に関して正しく理解したい」「資格習得」「ただの言語学習」などがあつた。非専攻者の場合は「就職のため」に続いて「趣味(旅行)」(28答、13.7%)、「日本人との交流」(13答、6.3%)、「日本に住みたい」(5答、2.4%)などであり、その他(15答、7.3%)では「対人関係のため」「視野を広げるため」「語学学習」「活用価値はない」などがあつた。

以上の結果から、専攻者と非専攻者の両群とも「就職のため」という回答が5割前後と非常に高かつた。続いて、専攻者の回答では「進学」が高かつたことに比べ、非専攻者は「趣味(旅行)」として活かしたいという回答が高く、専攻者とは異なる結果であつた。専攻者の場合は、日本語を専攻として「就職」と「進学」に繋げようとしていることが見られるが、非専攻者の場合は、教養科目として受講していることから、日本語学習を就職や趣味(旅行)などに役に立つということで、日本語学習の将来の目的が専攻者とは少しは異なることが示唆される。

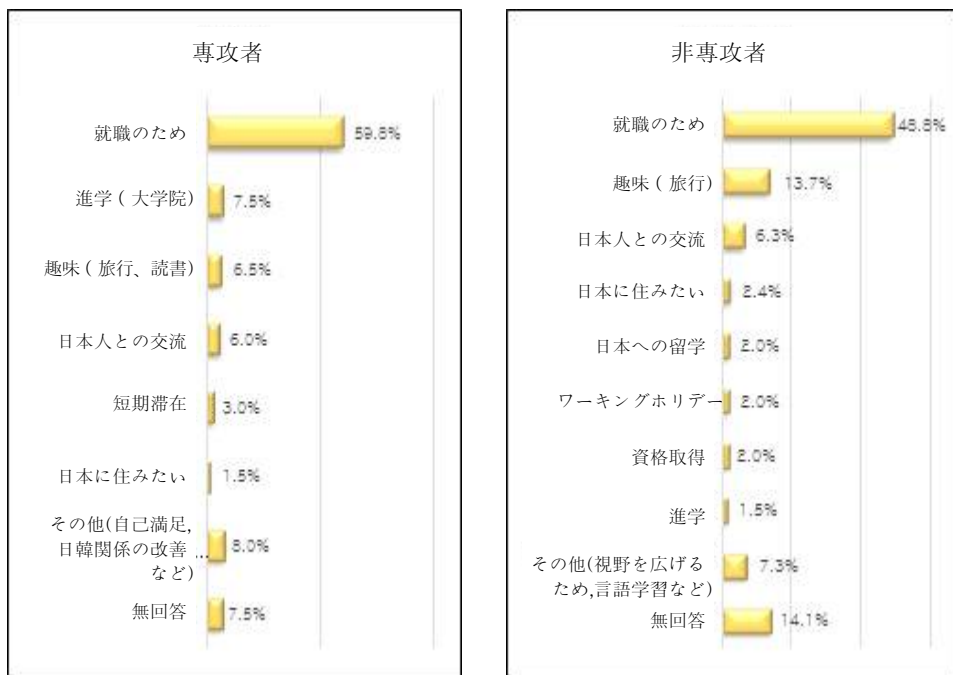


図3 日本語を学習して将来にどう活かしたいか

5. おわりに

5.1 日本語学習動機づけ

本稿では、韓国の大学における日本語学習者を対象として、近年の日本語学習動機づけを検討し、専攻者と非専攻者の比較を行った。

日本語学習動機づけについて、因子分析の結果では「語学学習志向」「日本文学・文化志向」「就職志向」「道具的志向」「日本への憧れ」「日本語学習志向」という6因子が抽出された。また、専攻者と非専攻者を t 検定で比較した結果、「道具的志向」と「日本への憧れ」について専攻者の方が非専攻者より有意差が

非常に高かった。特に、「専攻であるから」「大学に入学するため、必要であった」「卒業のための必修科目である」という回答が多く、日本語学習を内発的ではなく道具的に動機づけていることが見られた。これは、日本への興味・関心があるため日本語を専攻したいということではなく、「大学修学能力試験¹¹⁾の成績に合わせて大学に入学して専攻するようになった」という道具的な目的として日本語学習を始めたことが示唆される。

しかしながら、専攻者の場合、日本語学習開始の時には内発ではなかったとしても、日本語関連学科に入学したからには日本語が自分の専攻であるため、将来「日本語が使える職場で働きたい」、「日系・日本の企業に就職したい」などの「専攻を活かしたい」という考えから、「就職」に非常に関連づけていることが考えられる。また、非専攻者の場合も、現在「就職難」である韓国社会の特徴から、日本語学習開始の時点から「就職に有利」という日本語学習の目的が見られたことから、日本語を教養科目として学習して「自分の専攻に合わせて日本に就職希望」しているという現状も考えられる。

5.2 日本語学習開始・継続の理由、将来どのように活かしたいか

まず、日本語学習動機づけと関連し「日本語学習開始の理由」については、専攻者と非専攻者の両群とも「アニメ・漫画、J-POP、芸能人に興味」の回答が最も多く、続いて多かったのは「中・高校で第二外国語であった」であった。しかし、「専攻だから」と「大学の入学のため」は専攻者にのみ見られた理由であった。これは、「日本・日本人・日本語学習が好きだから」という「統合的動機づけ」ではなく、「大学修学能力試験」の点数に合わせて日本語関連学科に入学し

11) 「大学修学能力試験」とは、1994年度から韓国の大学入学の評価に導入された試験であり、この用語は「大学で修学できる能力を評価する試験」を意味する。

専攻することになったという目的達成のための「道具的動機づけ」であることが示唆される。

次に、「日本語学習を継続している理由」については、専攻者と非専攻者の間には大きな違いが見られた。専攻者の場合は「専攻であるから」という「道具的動機づけ」、非専攻者は「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」という「統合的動機づけ」が最も高かった。これは、専攻者の場合はすでに大学に入って日本語を専攻しているため、日本語が「専攻であるから」大学卒業まで続けようとすることが示唆される。一方、非専攻者の場合は日本・日本語への興味・関心を持って日本語学習を継続している「統合的」な特徴が見られたのは、大学で教養科目での外国語授業であるため、日本の国や人、言語などを知ることを楽しんでいるものと考えられる。また、「就職のため」について両群とも回答数が多かったのは、専攻者の場合は自分の専攻分野を将来に活かしたいという気持ちが多く、非専攻者は自分の専攻以外に外国語を習得し就職する際にアピールができる点から「就職に有利」と考えていることも示唆される。

最後に、「日本語を学習して将来にどう活かしたいか」については、専攻者（約6割）と非専攻者（約5割）の両群とも「就職のため」という回答が圧倒的に多かった。これは、「就職難」である韓国社会の状況を強く反映したものと考えられる。特に、専攻者はもちろん非専攻者も「日本への就職」という志望が多く見られる。

以上のことから、日本語学習動機づけについて、韓国の大学における日本語教師は「統合的動機づけ」はもちろん、特に現在韓国社会の特徴である「就職の問題」に関連付け、「道具的動機づけ」に焦点を当てれば、韓国人学習者の日本語学習の動機づけがより高まり、韓国人学習者や専攻者の数を増やす方略になると考える。

今後の課題としては、韓国人学習者や専攻者の増減に関連して、日本語関連分野の専攻者だけでなく、非専攻者の日本語学習動機づけについても、より詳細な調査研究を進める必要がある。

【参考文献】

- 石塚健 (2007) 「韓人大学生の日本語学習動機と自律性－学年別の動機づけと自己決定の段階性を中心に－」 『日語日文学』 第36輯, pp.141-157
- 纒坂英子・内藤伊都子・泉千春・奥山洋子 (2008) 「韓国の日本語教育状況の変化と大学生の日本語学習－日本語学習動機と日本・日本人イメージの検討－」 『日本学報』 75輯, pp.299-309
- 纒坂英子・奥山洋子 (2003) 「韓人大学生の対日観と日本語学習動機形成要因の検討」 『日本学報』 54, pp.187-198
- 大江恵子 (2012) 「韓国人日本語学習者の対日イメージ」 『東京女子大学言語文化研究』 20, pp.16-29
- 片田康明 (2016) 「日本語を学ぶ動機と日本に対する意識について－留学生へのアンケート調査結果から－」 『外国語教育：理論と実践』 42, pp.67-99
- 金元正 (2016) 「日本の韓国人留学生受入れ促進戦略への提言－対日イメージと韓国の大学をめぐる現状に焦点を当てて－」 九州大学大学院, 修士論文
- 郭俊海・大北葉子 (2001) 「シンガポール華人大学生の日本語学習の動機づけについて」 『日本語教育』 110号, pp.130-139, 日本語教育学会
- 近藤安月子・小森和子 (編) (2012) 『研究社日本語教育事典』 研究社出版
- 斉藤朋美 (2004) 「韓国の大学生の日本、日本人、日本語に対する意識とイメージ形成に影響を与える要因について」 『日本語文学』 21韓国日本語文学会 pp.35-56
- 斉藤朋美 (2016) 「日本語学習者と中国語学習者の学習動機とイメージ研究－韓国の大学生を対象としたアンケート調査の結果からみえるもの－」 『日本語教育研究』 第37輯, pp.81-100
- 田中洋子 (2012) 「韓人大学生の日本語学習動機づけに関する研究」 韓国外国語大学校大学院, 博士学位論文
- 寺島拓幸・広瀬毅士 (2015) 『SPSSによるデータ分析』 東京図書
- 中川かず子・神谷順子・李俊鎬 (2006) 「韓国における日本語学習者の日本と日本文化に対する意識 (1)－大学の日本語専攻・非専攻生に対する調査から」 『北海学園大学人文論

集』第35, pp.41 - 69

縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩 (1995) 「大学生の日本語学習動機に関する国際調査－ニュー
ジーランドの場合－」 『日本語教育』86号, pp.162-172 日本語教育学会

石川慎一郎・前田 忠彦・山崎誠 (編) (2010) 『言語研究のための統計入門』くろしお出版

米川和雄・山崎貞政 (2010) 『SPSS統計解析マニュアル』北大路書房

Gardener, R.C. & W.E. Lambert (1959) Motivational variables in second language
Acquisition, Canadian Journal of Psychology, 13, pp.266 - 72

교육부 국외 한국인 유학생 정보공개 (教育部 「国外韓国人留学生情報公開」)

<http://www.moe.go.kr/boardCnts/list.do?boardID=350&m=040103&s=moe> (検索日2018.09.13)

교육통계서비스 (教育統計サービス)

<http://kess.kedi.re.kr/index> (検索日2018.09.13)

法務省 「在留外国人統計 (旧登録外国人統計) 統計表」

http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html(検索日2018.09.13)

日本語教育振興協会 「日本語教育機関の概況」

<http://www.nisshinkyō.org/article/overview.html> (検索日2018.09.13)

国際交流基金 「海外の日本語教育の現状2015年度日本語教育機関調査より」

<https://www.jpfa.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html> (検索日 2018.09 . 13)

논문 투고 일자 : 2018. 09. 21.

논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.

게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 韓国における大学生の日本語学習動機づけの検討
 - 日本語関連専攻者と非専攻者の比較 -

金元正

本稿は韓国の大学における日本語学習者を対象として、近年の日本語学習の動機づけを検討し、さらに日本語関連専攻者と非専攻者の比較を行った。日本語学習の動機づけについての因子分析の結果では、「語学学習志向」「日本文学・文化志向」「就職志向」「道具的志向」「日本への憧れ」「日本語学習志向」の6因子が抽出された。専攻者と非専攻者のt検定の結果では、「道具的志向」と「日本への憧れ」について、専攻者が非専攻者より有意に高かった。特に「道具的志向」の項目である「専攻であるから」「大学に入学するため、必要であった」「資格習得のためである」「卒業のための必修科目である」などについては専攻者の方が非常に高かった。また、「日本語学習開始の理由」については、専攻者と非専攻者の両群とも「アニメ・漫画、J-POP、芸能人に興味」が最も高かった。「日本語学習を継続している理由」については、専攻者は「専攻である」、非専攻者は「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」が最も高かった。「日本語を学習して将来にどう活かしたいか」については、両群とも「就職のため」が最も高かった。

 The Motivation of Korean University Students to Learn Japanese
 - A Comparison of Japanese Majors and Non-Performing Majors -

Kim, Won-Jung

This study focuses on Japanese language learners at Korean universities. We considered their motivation for studying the Japanese language in recent years and compared the results to those of studies on non-Japanese majors. The results of a factor analysis on the motivation for studying the Japanese language showed that six factors were at play: language learning, Japanese literature and culture, job seeking, instrumental oriented motivation, hope for Japan, and learning the Japanese language. According to the results of the T-test conducted among major and non-major students, those who were influenced by “instrumental oriented motivation” and “hope for Japan” were significantly more than those who were influenced by non-majorities. In response to the question, “What motivated you to learn Japanese?” both groups mostly said, “Animation, comic strip, J-pop, interest in celebrities.” In response to the question, “Why do you continue to learn Japanese?” Japanese majors mostly said, “Because this is my major” while non-Japanese majors mostly answered, “Interest in the Japanese language, culture, and literature.” In response to the question, “How will you use the Japanese language in the future?” both groups mostly said, “To find jobs.”